

ぐんま 幼児教育センター だより

第50号

孫の手

群馬県総合教育センター
所長 古市 功



3月に初孫が誕生しました。日々、成長する姿を見るたび、目じりの下がるこの頃です。

赤ちゃんの五感は、生まれる前から発達し、誕生した時に抱っこされたり、話しかけられたり、乳を飲んだりする安心感を事前に獲得しているのだそうです。誕生から半年を過ぎた我が孫もすくすくと成長し、今はハイハイの真似事をしながら、猫のような声を発したり、笑ったり、すねたりと感情表現も少しずつ豊かになってきました。そんな過程を見ていて驚いたことが一つあります。それは手の使い方の著しい成長です。

手と一口に云っても、肩から指先までありますが、生まれたての頃は、当然、腕も上がらず、指も意識して動かすことはできません。自分の体であってないようなものです。少しずつ、腕が上がり、関節の可動域も広がるようになり、最近では、おもちゃを自分で握って揺らしたり、嫌いな野菜ののったスプーンを手で払ったりすることができるようになりました。まだ、会話のできない孫ですが手先を使うようになってから、一気に意思表示ができるようになった気がするのです。目ならぬ「手は口ほどにものをいう」感じですよ。

人類が他の動物と比べて、脳が著しく進化した理由は幾つかありますが、その中で決定的なのは二足歩行を獲得し、手を自由に使えるようになったことだと言われています。手を使うことで、火をつけ、道具を作り、文字を書くなど、その後の進化に大きくつながりました。このことは「ホムンクルス（脳の中の小人）大脳皮質のマッピング」でも証明され、脳に関わる感覚神経・運動神経の多くが「手」とつながっているそうです。

最近、教育現場では非認知能力の大切さが再確認されています。また、お年寄りには脳トレも大流行しています。優しさも学力も、その根源は脳にあるわけですが、脳を直接鍛えることはできません。では、どうやったら脳を鍛えられるのでしょうか？それは、脳とつながっている感覚神経と運動神経を大切に育てていくことに他なりません。

皆さんが幼児教育で関わる子供たちは、日々の遊びや運動の中でいろいろな感覚神経や運動神経を駆使しながら、心と頭を育てています。やさしくコップを持って丁寧に友達に渡してあげる子はやさしい心の種を育てています。鉄棒にぶら下がって我慢できる子は、力強さや勇気の種を成長させています。幼児教育期に何より大切になることは、子供たちが手や口、身体の手五感を存分に使って夢中になれる環境を整えることと確信しています。そして、その大切な幼児教育を日々、支えてくれている皆様には感謝しかありません。

結びに、日々成長していく孫と衰えていく爺、ともにブロック遊びをし、泥団子を作り、いつかはリンゴの皮むきの長さを競ったりしながら、友として励みたいと思うこの頃です。

お問い合わせ

幼児教育センター

<https://center.gsn.ed.jp/yokyo>

☎ 0270-26-9203

✉ youji@edu-g.gsn.ed.jp

SNSも
見てね



ぐんま幼児教育センターだより
50号をお届けします

- 1 ページ：「群馬県総合教育センター所長による巻頭言」
- 2 ページ：「今年度の研修講座について」
- 3 ページ：「今年度の夕やけ保育研修会について」
- 4 ページ：「幼児期の教育コラム」

今年度の研修講座

9月24日現在の
実施状況と
受講者の声

幼稚園等新規採用教員研修

研修日数：7日（集合2日オンライン5日）

幼稚園等3年目経験者研修

研修日数：1日（オンライン1日）

今回の研修を受けて、自分の保育課題を改めて見直すことができました。見直すだけでなくどうしたら解決し、よりよい保育を行うことができるのか今後も試行錯誤し、自分なりの保育の仕方を見つけていきたいと思います。

各園の週案や日案を見ることができ、様々な書き方があることに気付きました。「園内研修に関するねらい」や「家庭との連携」など、自園では書かれていない項目も多くあり、大変勉強になりました。

幼稚園等5年経験者研修

研修日数：1日（オンライン1日）

改めて自分の保育を見直す機会となりました。大人の決め付けで子供を見てしまっていたり、一度思ったことを再度考えることがなかったりと、反省すべき点が多々ありました。今まで以上に意識して子供のためになる保育をしていきたいと思います。

幼稚園等中堅教諭資質向上研修

研修日数：5日（集合2日オンライン3日）

スタートカリキュラムの実際の様子を知ることができ、新鮮だった。今後の連携の際に、互いの取組や考えをより理解し合えるようにしていくことが大切なのではないかと思った。

新任幼稚園等園長研修

研修日数：2日（集合2日）

非認知能力は園内研修や日々の保育の中で取り上げているため、講義内容を生かしていきたい。今後の幼小の円滑な接続に向けて、直接学校側の話を聞くことができ、よかった。研修を通していろいろなことが具体化され、イメージできた。

新任幼稚園等副園長・教頭研修

研修日数：1日（集合1日）

コーチングスキルを職員間で生かし、よいところを認めながら、それぞれが向上心や自信をもって仕事ができるようにしていきたいです。先生たちの話が大変おもしろく、とても勉強になりました。

幼児教育と小学校をつなぐ研修講座

研修日数：1日（集合1日）

小学校の先生が、幼稚園での学びを大切につなげてくださっていることを知り、ありがたく思いました。幼稚園側も小学校につなげていけるように、“前倒しではない遊びを通しての総合的な学び”をしていきたいです。

夕やけ保育研修会絶賛開催中！

<9月30日現在の状況>

ここまで3講座が終了し、残り3講座となりました。
毎回たくさんのご参加をいただき、楽しく充実した研修となっています。
残りの研修もオンライン研修です。どうかお気軽にご参加ください！

保育Café 「くっちゃべり亭」
15:10~16:40
(オンライン)

みなさんの日々の環境について話を聞いて、とても楽しく参加できました。0歳児、2歳児の環境についての話は驚くことばかりだったので、今後、学んでいきたいと感じました。

最初は緊張感もありましたが、場が温まると、すごく活発な話合いになったので有意義な研修となりました。

参加者の声

普段、幼稚園やこども園等の先生とお話する機会がないため、大変新鮮な研修会でした。保育園の先生に「小学校から授業での交流をお願いしたらお邪魔になりませんか？」とお聞きすると「そんなことはありません。小学校と交流がしたいです」という声を頂き、小学校から提案していくことが必要だなと思いました。

幼保こ小連携のための他園の取組を聞いて、自園でも取り組んでいきたいと思いました。一つの遊びを振り返り、子供にとってどのような学びがあるのか、またどのようなことが小学校に上がるためには必要なのかを考えながら保育をしていきたいと感じました。



発達理解と保育
15:10~16:40
(オンライン)

参加者の声

自分らしく生きるためには自己決定の経験が大切だと学びました。自己決定できる機会を作るのも失うのも、保育者だったり、関わる環境だったりするということが分かりました。

子供が「やりたい！」という気持ちをもって遊び込めるように、保育者として、魅力的な環境を作ることが大切であると分かりました。来月からの2学期、今回学んだ視点を生かしていきたいと思っています。

今後の予定

① 10月17日 15:10~16:40
保育Café 「くっちゃべり亭」
(幼児理解・保護者支援)

② 11月15日 15:10~16:40
保育者・教諭のウェルビーイング
キラキラしていて働きやすい職場を考える
群馬大学共同教育学部
附属教育実践センター
教授 安藤 哲也 氏

特別講演会
14:30~16:30
(オンライン)

12月27日 14:30~16:30
遊びはごちそう 学びは栄養 第二弾
-遊びに誘う魅力的な環境-

講師： 鳴門教育大学大学院
教授 佐々木 晃 氏



またきてな—
まっとなるじよ

大好評につき
第二弾！

佐々木 晃 先生の著書の一部を御紹介します。

- 遊誘財・子ども・保育者 鳴門教育大学附属幼稚園の環境をめぐる保育実践の軌跡(2022) 郁洋舎
- 0~5歳児の非認知的能力 事例でわかる！社会情動的スキルを育む保育(2018) チャイルド本社

今後のお申し込みは
こちらから！



先日、『インサイドヘッド2』という映画を見に行きました。主人公のライリーが思春期を迎え、新たな感情が芽生えます。その中に「シンパイ」という感情が登場するのですが、この「シンパイ」は将来が不安で仕方ありません。「もし〇〇になったら困るから、□□しておかなきゃ！」「この後、△△できるように、今は××なんかしてる場合じゃない！」そんなふうに、必要以上の準備をしまい、ライリーの中には感情の嵐が吹き荒れてしまいます。

と、公式ウェブページに書かれているのはこれくらいなので、これ以上のネタバレは控えますが、幼小の接続においても、ライリーと同じように「シンパイ」が先生方の中にいるような気がしています。

ある園で、年長児が大量の紙コップを並べて積み上げ、高い壁を作っている場面に出会いました。二つのグループが影響し合いながら、みるみるうちに高く、大きな壁ができあがっていきます。子供たちはこのとき、微妙なバランスで紙コップを積んでいく緊張感や、紙コップの壁で囲まれた自分たちだけの空間を作るおもしろさを味わっていたように感じました。また、まっすぐな壁や曲がった壁、高く積む部分と低い部分など、さまざまな形の壁を創意工夫して作る楽しさや、友達と話し合いながらイメージを膨らませ、いっしょに作っていく喜びなど、様々な思いや願いをもって壁づくりに没頭していたようにも見えました。先生は少し遠くからその様子を見守ってくださっていて、とても素敵なお場面でした。もしもこの場面で、小学校との接続を意識するあまり「小学校の長さの勉強で困らないように、紙コップ何個分かを数えさせて、どちらが高いか比べるようにしよう」となっていたらどうでしょう。先ほど述べたような遊びの豊かさは失われ、算数につながる知識・技能を獲得するための手段になってしまうのではないのでしょうか。もちろん、子供たちが作っていく中で「比べたい」という願いをもち、試行錯誤の中で同様の方法にたどり着くことは十分にあると思います。しかしそれはあくまで、子供の内側から発するものであってほしいと思うのです。

津守真は子供に対する保育者の関わりについて、「いま」の大切さに言及しています。「保育者は、出会った子どもと共にいる『いま』をたいせつにし、子どもにも自分にも『いま』を明るく充実したものとなるようにかかわる。そうすると子どもは自分から次の活動を展開させる。大人が、未来への不安にとらわれて現在をおろそかにしたら、子どもと落ち着いてかかわることができなくなる。未来は充実した現在の中から生み出される。」⁽¹⁾

「幼小の円滑な接続」と聞くと、マナーやルール、学習内容など、入学後に子供たちが困らないよう、園でしっかり教えなければいけないと、将来を「シンパイ」している先生も多いと思います。しかし、目の前の子供たちが「いま」体験していることをより豊かにしていくことで、好奇心や主体性、協同性、道徳性など、様々なものがその小さな体の中に芽生えてきます。そして、豊かな体験を通して子供たちの内面に育ってきた力は、学校生活において、自ら学び、人間関係を築き、よりよく小学校生活を送るために大切な力となるのではないかと思います。幼児教育センターでは、園と小学校との円滑な接続についての研究を進めています⁽²⁾。ぜひウェブページにアクセスしていただき、各園における子供たちの育ちを小学校に伝えてみてください。今後もさらに研究を進めていきます。乞うご期待！

(1) 津守真(2002)保育の知を求めて. 教育学研究, 第69巻, 第3号

(2) 群馬県総合教育センター幼児教育センター. 幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続に向けて, <https://center.gsn.ed.jp/yokyo>